

さまざまなアプローチ によるリフレクション

「リフレクション」は「省察」「反省」「振り返り」などと訳されますが、どの訳語をとっても、どこことなく内向きなイメージがあります。もちろん自らを問う以上、内面に向かうのは間違いないのですが、「リフレクション」の方法までもが、内向きなものばかりである必要はありません。

授業者自らが、授業そのものを具体的に振り返り気づきを得る「授業リフレクション」を行うのは珍しくなくなりました。しかし、せっかくリフレクションするのに、何か一つの方法に執着して、さまざまなツールや場があることに気づいていない、気づいていても活かしていないという傾向が否めません。

今回の特集は、先生方にリフレクションの幅広さを知っていただき、構えることなくオープンマインドで取り組むことにより、もっと日常的に授業を「振り返る」ことができるよう願って組まれました。

さまざまなツールや場を利用して授業リフレクションを積み重ねていけば、それが授業研究として成立することにも注目いただきたいと思います。